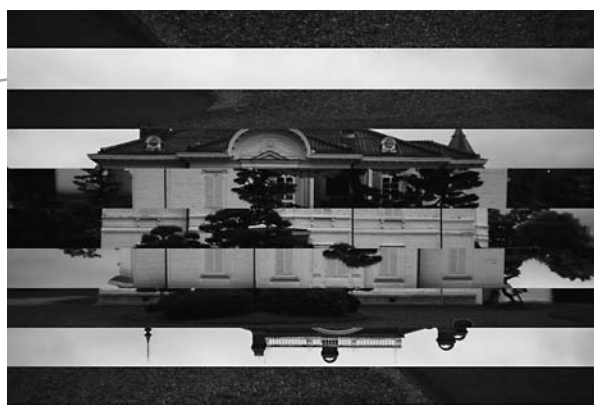


11月号
VOL. 499

土會奈良

593



SHIKAI

2017 NARA

表紙のことば

今号は、島根・鳥取・山口・岡山各県の棚卸しです。

石見畳ヶ浦（浜田市）

は波食棚の縦横に走る亀裂が畳を敷きつめたようにみえることから、千畳敷と呼ばれています。約1,600万年前の砂岩層は貝や流木などの化石が含まれ、丸い石（ノジュール）が平行に並んでいる姿は、古代人と会話している感じがします。表紙では波食棚から波をイメージしました。



仁風閣（鳥取市）は皇太子嘉仁親王（後の大正天皇）の山陰行啓時の宿泊施設として、1907年に鳥取城跡の扇御殿跡へ建てられた別荘です。フレンチ型ルネサンス様式を基調とした白亜の木造瓦葺の建築物は、2階から池泉回遊式日本庭園の宝隆院庭園が一望できます。表紙では城の石垣をイメージして、横方向のスリットにしました。



浜崎伝統的建造物群保存地区（萩市）にある池部家住宅は3代に渡って蒲鉾製造を営われてきた町屋で、明治中期の建築物です。切妻造・平入りの建屋構造でしたが、道路拡張に伴って表側2間が切り取られ、表構えが斜め格子になったところがお気に入りです。表紙では縦格子をイメージしました。



奈義町現代美術館（岡山県奈義町）は1994年に開館し、芸術家が巨大作品、磯崎新が空間を担当し、作品と建物が一体化されています。太陽・月・大地と名付けられた3つの展示室から構成され、この土地の自然条件に基づいた固有の軸線を持っています。借景には秀峰那岐山を望め、季節ごとにその表情の変化を据えることができることから、表紙では万華鏡から覗いた世界をイメージにしました。



（写真・文 情報広報委員会・水守寛敏）

情報・広報委員会

委員長 松尾 憲治

副委員長 折目 貴司 大倉 克之

委員 乾井 哲 水守 寛敏
松村 泰徳 小松原寛俊
崎山 泰正 福本 保治
藤井 靖彦 宮浦 重彦
福田 成生

Contents

001 桜井支部
景観デザインコード 現状報告

002 国立大学法人奈良女子大学
第1回 住環境学領域の構成と
教育研究の概要

004 女性委員会／青年委員会／
教育・事業委員会
3委員会合同見学会
“越中富山はキトキト建築旅”

006 桜井支部／奈良支部／
橿原支部／郡山支部
空き家調査 各支部現状報告

009 青年委員会
製鉄工場見学会

010 青年委員会
五感で感じる木の事業

011 おしらせ
ホームページ・ヘッドライン
新年大交歓会 他



桜井支部 景観デザインコード 現状報告—桜井市

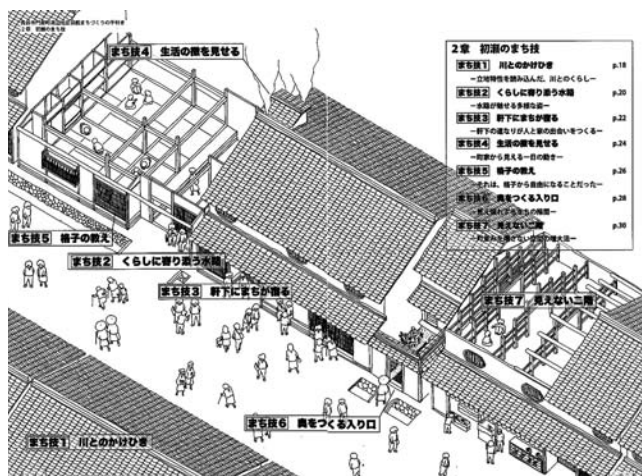
「土會奈良」2016年11月号に掲載いただいた、桜井市の景観デザインコードづくりも、ようやく3地区の案が出そろった。各地区三者三様の手引きとなったが、共通して言えることは、歴史に基づいたそれぞれの町の佇まいを、地域の生活、発展に活かしていくためのデザインを考えているという点である。



「三輪・大神神社参道地区」と「桜井駅周辺・本町通り地区」では、各地区にふさわしい景観づくりのため、屋根、軒、庇その他の外観デザインや設備を、遵守ルール（最低限守ってもらいたい作法）と推奨ルール（可能な限り取り組んでもらいたい作法）と2段階に分け、具体的な形態、意匠をしめしている。



「長谷寺門前町周辺地区」では、自然環境と歴史に育まれた特徴的な景観を「まち技（わざ）」として紹介し、これを現代に応用した場合の「新技（しんわざ）」を提案している。



いずれの地区も、旧街道沿いの町場や、門前町として形成された地域なので、まちづくりの考え方は、来訪者を増やし、地域を活性化すると共に、住民にとって、豊かなコ

ミュニティがあり、子供やお年寄りなど多世代が安心して暮らせる町であるという、来訪者の視点、生活者の視点の双方を踏まえたものとなっている。

また、市全体の問題として、住民の高齢化に伴う、空き家や空き店舗などの増加があり、景観形成は、空き家問題と密接に係わりながら検討すべきものであるとされている。平成29年度以降「三輪・大神神社参道地区」では、まちづくり協議会で景観、空き家、イベントなどを総合的に協議決定していき、「桜井駅周辺・本町通り地区」では、まちづくり推進団体が中心となり、行政、地域住民、各種団体が連携し、景観、空き家利活用、バリアフリー、観光資源についての情報発信などが計画されている。「長谷寺門前町周辺地区」では基本計画策定委員会により、景観、賑わい再生、空き家利活用、街道整備などが検討される。建築士会桜井支部では、景観、空き家、バリアフリーのすべての協議会に委員として参画しており、今後とも行政に協力してまちづくりに取り組んでいきたいと考えている。



景観形成の現状は、一定規模以上の建て替え（高さ10m超又は建築面積100㎡超）について、桜井市景観計画に基づく届け出が必要で、景観形成基準への適応が求められるだけであるが、今後、地域住民の合意を得た上で、デザインコードにある「作法・ルール」を景観協定・景観地区などの手法で担保していく方法が検討され、一定の基準を満たした建物の改修に対する補助制度の導入も検討される予定である。この制度の活用を見込むためには、設計を請け負う可能性の高い、地域の設計者、建築業者の景観形成に対する深い理解が必要である。景観の保全とコンプライアンスなど、整理しなければならない問題が考えられ、他の地域との情報交換や、対策の協議を行うことが必要となると考えられる。

（記・桜井支部 山本規子）



国立大学法人 奈良女子大学 生活環境科学系住環境学領域の教育研究の現状とビジョン

第1回 住環境学領域の構成と教育研究の概要

2010年に遷都1300年を迎えた歴史と伝統のある奈良の地に、109年前に難産の末にようやく産声を上げた女子のための官立学校最高学府。そこに、生活者の視座に立脚した住環境学の教育研究を行い、多くの理系女性人材を社会に輩出している教育研究組織がある。

この度機会を得て、奈良女子大学生生活環境科学系住環境学領域における今日の研究について、全構成員が、それぞれの専門領域における実践内容を紹介するというオムニバス形式のシリーズを開始する。これが契機となり、本領域が、皆様にとってより身近な存在となれば幸いである。

研究紹介に先立ち、第1回である本稿では、本領域の概要と教育ビジョン、教育体制、構成員の専門分野、学生の主な進路を紹介することで、次稿以降の多岐にわたる研究が基盤としている組織の紹介とする。

1. 住環境学領域の誕生と人員構成(2017年5月1日現在)

住環境学領域のルーツは家政学である。母体である奈良女子大学(昭和24(1949)年発足)の前身は奈良女子高等師範学校(明治41(1908)年開校)である。本領域は同校家事科に始まり、昭和27(1952)年設置の奈良女子大学理家政学部家政学科住居保健学専攻に続き、その後の改組・改称を経て、今日に至っている。

20世紀初頭、我が国では日清・日露戦争による近代化・産業化にともない、女子教育への要請が飛躍的に昂まり、それに応えるために女子教員の養成が急務となり、東京(現お茶の水大学)に続く第2女子高等師範学校の開設が希求された。これの奈良設置は、当時立ち消えとなった東京美術学校(現東京芸術大学)校長・岡倉天心による同校の奈良分校構想にあたっての奈良の校地準備努力と無縁ではない。長年の誘致活動が尊重されて、帝大など学校が集積し教育環境に恵まれているとする京都案を、明治40(1907)年衆議院において131対132で征して、奈良の地に誕生した。

当初は、文学部と理家政学部の2学部であったが、昭和28(1952)年、理家政学部が理学部と家政学部に分かれ3学部となり、平成5(1993)年に家政学部は生活環境学部に変更された。大学院は、昭和39(1964)年から順次設置され、現在では大学院人間文化研究科が、前期課程13専攻と後期課程5専攻で組織されている。教育研究に携わる常勤大学教員は201名である。学生在籍定員は、学部1980名、大学院522名であり、在籍者数はそれぞれ2128名と534名である。

住環境学領域の学士課程(生活環境学部住環境学科)入学定員は35名であるが、転科転専攻生(2回生から)および編入学生(3回生から)を受け入れるため、3・4回生は概ね40名を越え、在籍総数161名である。これを教授5名、

准教授4名、講師2名、助教1名で指導する。大講座制であり12の研究室がある。学部生の研究室配属は3回生後期からである。大学院博士前期課程では住環境学領域は住環境学専攻と生活工学共同専攻に分かれる。このうち住環境学専攻入学定員は13名、在籍総数37名であり、教授4名、准教授4名、講師2名の10研究室体制で指導する。生活工学共同専攻設置(2016年度)以前は、学部と同様の12研究室体制で住環境学専攻の教育にあたっていた。博士後期課程社会生活環境学専攻入学定員は15名であり、在籍総数78名である。このうち住環境学領域である生活環境計画学講座の在籍学生は28名である。これを教授4名、准教授4名の8研究室体制で指導する。

2. 住環境学領域の教育方針とビジョン

住環境学は、安全・安心で、健康・快適に生活することができ、自然環境とも共生できる住環境を総合的に創り上げていくことを目指した学問体系である。奈良女子大学住環境領域では、身近なインテリア・住宅から、近隣環境、ランドスケープ、地域コミュニティ、都市にいたる広範な領域を対象に、これらを生活との関係から、どのように計画、設計、整備、管理していけばよいかを考えていく。

住生活、コミュニティ、建築デザイン、光・音・熱・空気などの物理的特性、空間構造と材料の性質、住環境形成の歴史、制度やしきみ、ランドスケープなど多様な側面から学習し、研究する。各人が自己の目標に即し、幅広い知識・教養と住環境に関する基礎的能力を身につける履修プログラムを組み、専門的知識・能力を実務に応用でき、社会の要求に十分応えることのできる人材の養成をめざした多角的な授業形態によって学習する。

3. 住環境学の教育と教員の専門分野

3.1 教育分野

本領域の各課程に於ける主な専門教育科目を講義中心に表1に示す。併せて、右欄に教員の専門分野と本シリーズ各専攻の仮題を示す。専門分野は、計画・意匠系、構造・材料系、環境工学系の3分野に大別される。本領域の特徴は、計画・意匠系に多彩な人材を揃えていることである。

住環境学教育を通して習得すべき基礎的能力や専門的知識は、所謂伝統的な建築学科と同様であるが、生活者の視座に立脚した課題発掘能力の涵養に注力している点が家政学をルーツとする本領域の特色である。本領域の教育目標は、一分野だけを極めるのではなく、生活者の視点に立って包括的に考え、課題解決に取り組むことの出来る人材の育成である。

また、古都奈良の地にあるというこの比類無い特色を最大限に生かした教育を実践している。世界遺産に登録され



略歴：井上容子 (いのうえ ようこ)

奈良女子大学生生活環境科学系教授、工学博士。1954年7月生。1998年3月、大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻単位取得満了、現在、光・視環境計画に関する研究・教育活動に従事。2013.4-2017.3、奈良女子大学理事・副学長。2017年6月より照明学会会長。社会活動として、大学設置審議会、大阪府等の建築審査会、奈良県環境影響評価審議会、奈良県収用委員会の委員などを歴任。オリンピックを控え、2015年度に環境省の皇居外苑における照明のあり方検討会委員を務める。

受賞歴：2016年照明学会賞（研究業績賞）、2016年照明学会功労賞、2012年日本建築学会賞（視覚特性の個人差に対応した視環境計画法に関する研究）、2009年照明学会論文賞（個人の視認能力を考慮した色の三属性の細部識別閾への影響）他

ている数々の建造物をはじめ、埋蔵文化財、史跡・名勝を目の当たりにしての体験学習、寺社仏閣などの木造建造物の維持管理・耐震補強、伝統的市街地の継承と活性化、観光都市の照明計画、などである。

3.2 取得資格

住環境学科の教育プログラムはJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を2005年度より継続的に受けており、卒業生は全員技術士の第1次試験を免除される。また、二級建築士受験資格と実務経験2年後の一級建築士受験資格が全員取得できる教育カリキュラムとなっている。大学院前期課程には実務経験1年が認定されるインターンシップ科目も設けている。従って、卒業後に受験できる資格は、一級建築士（実務経験2年または1年）、二級建築士、木造建築士、技術士（第一次試験免除・実務経験4年）である。在学中に受験できる資格は、インテリアプランナー（登録資格）、福祉住環境コーディネーターである。在学中に所定の単位履修で取得できる資格は、中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭）、学芸員、学校図書館司書教諭である。

4. 卒業生・修了生の進路

平成23～平成27年度学部卒業生の5年間の累計就職・進学率は96.9%であり、その内の39.2%が大学院への進学である。進学先は、奈良女子大学への内部進学者が大半であるが、近隣の京都大学、神戸大学をはじめ、国内外他大学への進学も積極的に行われている。また、本領域への入学者は全県に渡るため、地方公務員としての就職先も、奈良県や大阪府などの近畿圏は勿論であるが、広く日本各地に渡る。企業就職者は5年間の累積で約50%である。

大学院修了者を含むこれまでの主な就職先企業は次の通りである。《建設・不動産》大林組、清水建設、鴻池組、日

本郵政、NTT都市開発、森トラスト、UR都市機構、セキスイハウス、ダイワハウス、パナホーム、三井ホーム、トヨタホーム、日建設計、日本設計、NTTファシリティーズ、坂倉建築設計研究所、乃村工芸社等。《製造・流通》シャープ、パナソニック、東芝、ダイキン工業、ノーリツ、YKKap、ローム、TOTO、住友林業、クリナップ、ファーストリテイリング、ニトリ、イトーキ等。《運輸・通信》西日本旅客鉄道、東日本旅客鉄道、東京急行電鉄、日本航空、全日本空輸、NTT西日本、福山通運等。《その他》京都銀行、ゆうちょ銀行、総合警備保障、北陸電力、大阪ガス、吉本興業、近鉄都ホテルズ等。

5. おわりに

本学は、国家的プロジェクトでもあるCOC+（地域創成事業）に奈良県とも連携して取り組んでおり、大学と奈良県内の自治体・企業が連携して、地域を志向した教育並びに社会貢献を推進し、地域の活性化、地域が求める課題解決に資する人材の育成を目指している。その一環として、奈良に相応しい人材を育成し、学卒就職者の約2割を奈良県下に輩出するという目標を掲げている。大学全体ではおよそ60名/年であるが、これを住環境学科に適用すると、学校・官公庁を含み毎年少なくとも4名から5名の学卒者が奈良の企業に巣立つことになる。

本シリーズによって奈良女子大学生生活環境科学系住環境学領域への理解を深め、本領域に注目して頂き、積極的に人材育成への支援を頂ければ幸いである。また、キャリアアップや諸事象を究めるために、本領域で研究活動を協働展開して頂くことも大いに歓迎する。

（学科HP <http://nara-wu-jukan.skr.jp>）

表1 教育内容および教員の専門分野とシリーズ敲の仮題

教育分野		開講科目				教員の 専門分野	掲載予定回と各稿のテーマ(仮)
		学部		大学院			
				前期課程	後期課程		
		住環境学科		住環境学	生活環境計画学		
計画・ 意匠学	計画学	住生活学 建築計画学 都市計画学	生活空間解析学 福祉住環境学 住環境法規	住居論 住居集合論 都市政策論 生活空間計画論	居住空間構成 計画論* 集住空間計画論 集住環境計画論 居住環境整備論 地域共生計画学	歴史・保存 生活空間解析 建築設計 景観設計 福祉・住生活 住環境計画 都市・地域計画	②芸術とデザイン ③自然と共生する住まい ④集まって暮らすことをデザインする ⑤景観をデザインする ⑥高齢期の居住継続を支える地域と住まい ⑦防犯環境設計と安全安心のまちづくり ⑧人口減少時代の都市計画
	デザイン学	建築・住居史 建築・住宅論 空間デザイン学 インテリアデザイン	緑地環境計画論 建築図学 測量学実習 設計演習	住環境デザイン論 景観設計論 住環境史論			
構造・ 材料学	構造	建築構造力学 建築一般構造学	木造建築構造学 建築構造学実習	建築構造デザイン論	居住環境管理論	材料・管理 木質構造	⑨木材と住環境 ⑩伝統構法木造建築物の耐震性能評価と 補強方法 ⑪住まいの安全性
	材料・管理	住居管理学 住居管理学実習	建築材料学 建築施工学	住環境管理論 安全住工学			
環境工学		建築環境学	建築設備学	建築環境論	生気候論	熱環境	⑫住まいの断熱・気密性能と健康・安全・ 快適・省エネとの関わり ⑬光と色による環境デザイン:時空間分布 のコントロール
		建築装備学	住環境工学実習		明視環境計画論	光環境	

*生活工学共同専攻開講科目



3 委員会合同見学会 越中富山はキトキト建築旅

9月23日（土）～24日（日）の2日間、富山方面へ32名参加、2日間で美術館や伝建地区など9カ所を回る超過密スケジュールの研修会へ出かけました。



当日は、それまでの天気が嘘のように晴れ昼過ぎには、最初の見学先(株)能作本社（設計：アーキビジョン広谷）に到着。エントランスに展示してある鋳物の木型や、鋳物（錫100パーセント）に触れ、又実際に錫のグラスで氷水を飲み、肌に直接伝わる冷たさとその魅力に感動し、鋳物工場は見学できず次回に持ち越して、あたふたと次の場所へ移動。



2番目の見学先 瑞龍寺では、国宝の総檜造りの法堂でお彼岸の法要が行われており、秋の空気を感じながら寺内を拝観しました。3番目の見学先 高岡市美術館（設計：内井昭蔵）では、高岡の鋳物技術を生かしたアルミキャストが回廊の屋根などに使われ、又自然光によるアートホールの吹き抜けや、地階の開放的なガラスの壁面からは、柔らかな光がふんだんに入り込み気持ちのいい空間でした。

4番目の見学先、高岡市伝建地区山町筋（土蔵造りの町並み）は、明治33年の大火で町全体の6割の家が焼け、焼け残った土蔵造りの町屋に倣って作られた町屋が現在の山町筋の町並みとなっています。ボランティアガイドの方の



説明を聞きながら、町並みを周りました。家全体を漆喰で塗り固め、隣家との防火壁や、1階の大戸（火事の時に閉める）、2階の窓も漆喰で作られた覆いをする事で、火事の備えをしています。丁度全国クラフト展のイベントが行われており、土蔵造りの町屋や蔵を生かした展示をしていました。空家対策の一環としても



大変興味深いものでした。

1日目の最後の見学先、富山県水墨美術館では、5時までの入館が間に合わず待つて頂いたにも関わらず、茶室：墨光庵を丁寧にを見せて頂きました。又日本庭園の美しさにも触れ、芝生の庭で夕暮れの景色にほっと一息。これで今日の見学スケジュールは完了しました。

翌朝は、ホテルより第1班（徒歩コース）出発は7：30、富岩運河環水公園の世界一美しいと言われるスターバックスコーヒー、富山県



美術館オノマトペの屋上（体験型遊具）まで歩きました。

今回のメインの見学先である富山県美術館（設計：内藤 廣）に到着。まず、屋上庭園のオノマトペ【onomatope
[フランス語]

は、物の音や声
などをまねた擬
声語（ざあざあ、
じょきじょきな
ど）あるいは状
態などを表す擬
態語（てきぱき、
きらきらなど）
をさす言葉。】で

は、しばらく遊
具で遊ぶ子供た
ちを見ながら私
たちも遊び、童
心に帰って楽し
いひと時を過ご
しました。屋上
から富岩運河環



水公園を望むと素晴らしい景観に、ほんとに日本なのかと
思われるほどでした。本館の見学では、ディティールの緻
密さに感心し、木のやさしさに感動し、つくづく包容力
のある建築だなあと一人心地していました。

次の見学先、富山市ガラス美術館「TOYAMA きらり」
（設計：隈研吾）は、富山市の目抜き通りにある百貨店の
跡地にある再開発ビル、ひとつの建物の中に図書館もあり
ガラス美術館もあります。中央の吹き抜けが斜めにセット
バックしながら登っていき、そのなかを杉材のルーバーが
傾斜しながら登っていきます。外壁は、御影石、アルミパ
ネル、PCなどで、名前の通り、キラキラしています。

最後の見学先、高志の国文学館（旧知事公舎増改築・設
計：伊藤恭行／Can）外壁をアルミ鋳物パネルで覆いー



一枚一枚微妙な色の違いを見せるアルミパネルと天井を低く
抑えているライブラリーは、キャンティレバーそして庭園
に向けて、大きなペアガラス 3 m×7 m×3 枚の空間が広
がる。落ち着いた空間となっていました。

参加された皆様、お疲れ様でした。皆様もこの研修会が
これからの仕事に役立てれば幸いです。

本保委員長、山本副委員長、途中私の怪我もあり、企画
から段取り、2 日間の引率まで本当にありがとうございました。初めての研修会引率（ほとんど、お二人にまかせっ
きりでしたが）を、何とか無事終わることが出来ました。
富山の研修会を終え、富山のひとと暮らし、建築、産業が興
味深く、又訪れたいところになりました。

（記・女性委員会 武市啓子）





空き家調査 各支部現状報告

■桜井市空家等対策協議会

平成29年1月に空家等対策協議会が立ち上がり、委員は大学教授、自治会、不動産鑑定士、弁護士、建築士の5名である。平成29年度から5か年の計画案が、今年、3月にパブリックコメントを経て策定された。目的は、「特措法に基づき適切な管理が行われていない空家等による、安全性の低下、公衆衛生の悪化、景観の阻害等多岐にわたる課題に対応するとともに、空き家等の積極的な利活用による地域活力の維持・増進に取り組むため、市の基本的な方針等を示し、空家等の総合的・計画的な対策の推進」としている。桜井市の事業として

- ①常設相談窓口開設
- ②空き家バンクをホームページに開設
- ③所有者、利活用希望者対象の相談会、セミナーの開催
- ④希望する自治会や地域団体にむけての出前講座
- ⑤空家所有者に向けて啓発パンフレットを送付

が計画、実施されている。

差し迫った問題として、管理不全の空家の案件があり、特定空家等の認定、執行に至るフローチャートや、認定のための判定基準の策定が進められている。協議会は、このフローチャートの中で、個々の空家を特定空家と認定するかどうかの意見を述べるよう位置づけられている。又、建築士会としては、立ち入り調査の際の判定実務の補助が求められている。（利活用例：旧京都相互銀行）



桜井市では、以前から一部地域における、民間レベルの空家の利活用に対する取り組みが活発に行われてきた。

平成26年からは、行政により奈良県との包括協定に基づいた「まちづくり」の中で、景観、バリアフリーと連携して空家対策が検討されてきている。今年度からは各方面において、実施の時期に入っており、建築士会としての協力が一層求められると思われる。

（記・桜井支部 山本規子）

■奈良市空家等対策協議会

奈良市では平成27年7月に「奈良市空家等対策協議会」が設置され、「奈良市空家等対策計画」の作成及び変更、実施等について計4回協議が行われ、平成28年3月に「奈良市空家等対策計画」が策定、「奈良市空き家等実態調査報告書」が作成されました。

空き家の現地調査の結果、奈良市における空き家数は2,722戸（共同住宅、賃貸用・売却用の住宅は除く）、空き家率は3.6%でした。調査された空き家の94.2%は、ほぼ修繕の必要がないと評価され、地区別（中学校区別）の空き家数は、春日中学校区が345戸と最も多く、空き家率についても同様に中央市街地ゾーンが高く、北西部ゾーンでは低い結果となりました。この調査による空き家等の情報は、管理データベースとして整備更新され、庁内の関連部署で共有を図り、空き家対策等で活用されています。

奈良市の空き家対策の取り組みとしては、平成27年度から住宅課が総合窓口となり、相談に対応しています。空き家等の利活用に関する取り組みは、平成24年「ならまち町家バンク」を設立、平成27年から「奈良市空き家・ならまち町家バンク」のホームページが新設され、情報サイトとして奈良ブランド課により運営されています。



〔奈良市空き家バンク・ならまち町家バンクのHP〕

平成29年2月の第5回協議会にて、事務局の住宅課より「空家等対策計画」の進捗と、行政処分（命令）予定の空家について報告がありました。特定空家等と判断した空き家等の除却工事に要する費用の一部（限度額30万円）の補助も利用され、これまで行政代執行は行われておりません。また、奈良市全域の空き家・町家をまちづくりの資源として有効活用してもらうため、空き家の改修経費に対して最大400万円の補助金が交付される「空き家・町家活用モデル事業」として、平成28年は5件実施、平成29年度は3件採択されました。（記・小笠原香代）

■ 榎原市における空き家対策

榎原市は、平成27・28年度に、空き家に関する調査が行われました。水道情報等から空き家等候補を抽出し現地での外観調査により空き家として判定する方法でした。空き家等と判定された建物は816件でありました。そのうち、管理状況が良好な建物が773件であり、管理がされず問題であると思われる建物が4件、その中間的な建物が39件であり、9割以上が管理良好な空き家であることがわかりました。また、自治委員に空き家等の把握と管理状況、空き家等の問題点、自治会が取り組んだ事例等の項目でアンケートされました。その結果では、空き家はほとんどの地区に存在し、空き家等の問題点では、保安上の問題が34%、周辺環境への問題が28%、景観上の問題が21%であり、特に樹木や草の繁茂で困っているとの回答が多くありました。そして、自治会が取り組んだ事例としては、所有者への状況の連絡、雑草等の伐採、自治会での情報管理、近隣住民での維持管理などがあげられています。

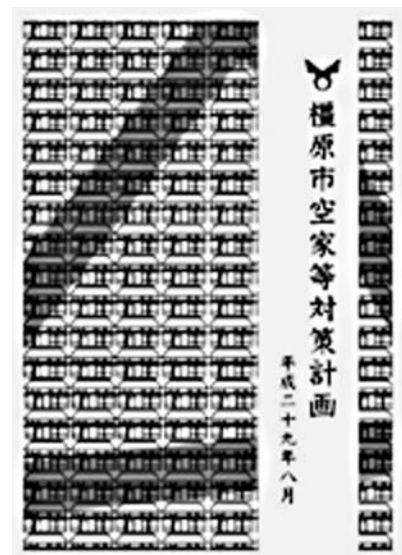
また、平成27年には大学教授、弁護士、建築士、行政、消防の5名により構成された「榎原市空き家等適正管理委員会」が設置されました。この委員会では、空き家の調査手法や調査結果を踏まえた空き家等対策の方向性などが議論されました。そして、平成28年には、市長をはじめ11名で構成された「榎原市空き家等対策協議会」に編成替えされました。その協議会での議論とパブリックコメントを経て、平成29年8月に「榎原市空き家等対策計画」が策定されました。

「榎原市空き家等対策計画」では、基本的な方針として、①適正管理は自己責任であること、②空き家等の流通や活用の推進のために信頼できる中間支援組織を確立すること、③まちづくりの視点を持った取組をすること、④歴史的建築物を活かす、が上げられています。その中間支援組織として、榎原市版空き家プラットフォームの立ち上げが現在検討されています。そして、専門団体の参画を目指され、奈良県建築士会にも、9月19日説明と参画要請がありました。

(記・榎原支部 米村博昭)



榎原市空き家等対策協議会



榎原市空き家等対策計画

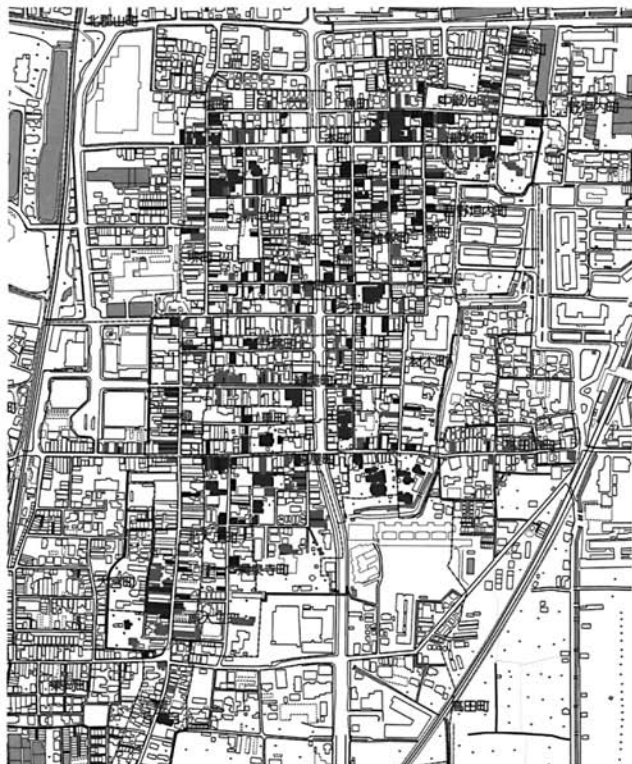


郡山支部

大和郡山城下町の6年間（平成22年～28年）の変化

～歴史的建造物が36件減少！このままで良いのか？？～

『箱本十三町』に現存する歴史的建造物の変化



【平成23年】

※『平成22年度・23年度 大和郡山市歴史的建造物調査』（奈良県建築士会郡山支部）より



【平成29年】

「○」の建物が無くなっている！

郡山支部では、過去に調査した歴史的建造物のその後の変化を7月に調査しました。平成22年から24年の調査中にもその後も目に見えて建物が町から消えていく現状を目の当たりにしていましたが、今年度の調査により6年間で36件が無くなり、「建替え」、「駐車場」などへと大きな変化が生じていることが確認できました。

特に、柳町通りの明治後期から大正期の規模の大きい町家を取り壊され、景観に影響を与えているのが印象的でした。郡山の商店街から歴史が消えつつあります。

まちづくりの機運が高まった平成24年から25年に柳4丁目に数件の空き家を利活用したお店が開店し、賑わいが戻りましたが、残念なことに歴史的な建物が壊されていく現状は厳しくなるばかりです。

雑穀町、奈良町、茶町の建物も変化が大きいものでした。かつては、JR郡山駅西側にあった紡績工場関係の方たちの住居が多く、長屋が多く残る地域でありました。調査の結果、長屋の取り壊しが進み、新しい住宅に変わりつつあることが分かりました。町の歴史と共に建設された住居は、今の時代に染まってしまった様相を呈しています。

歴史ある城下町郡山の町から、歴史的建造物がスピードを増して無くなっています。歴史的建造物を残し、町の証人として利活用することを本気で、今、考えないといけません！（記・郡山支部 徳本雅代・折目貴司）



柳4丁目の状況
写真右に規模の大きい
町家があった
平成29年1月撮影



柳4丁目の状況
町家が解体され分譲住
宅が建設された
平成29年10月撮影



青年委員会 製鉄工場見学会

9月8日（金）新日鉄住金(株)製鉄所（和歌山地区・堺地区）、日鉄住金建材(株)工場において、製鉄工場見学会を開催しました。

今まで見てきた鉄鋼関係の製造過程を見ることでより一層鉄鋼関係の知識を深め、今後の実務に活かして頂きたいという目的の企画でした。

今回は「新日鉄住金(株)」様にご多忙の中、工場内の案内及び各製造過程の説明を行って頂けることとなり、開催に至りました。

AM 8:00 大和八木駅に集合後、バス2台で製鉄所（和歌山地区）に向かいました。

AM10:00～AM12:00 製鉄所（和歌山地区）に到着後、工場の職員の方々からパンフレット等を用いて座学を行って頂き、職員の方々の誘導のもと工場内の見学をしました。

原料が高炉で溶かされ整正されたスラブ・丸ビレットになる過程を見学し、継目無鋼管を作成する方法を説明頂きました。

時間の都合上、質疑応答は堺地区工場見学後に行われることになりましたが、製造中の火花が飛ぶ可能性がある程近くで見学することが出来て熱心にメモを取る方や原料・製造途中のサンプルを持ち帰る方も多数おり、製鉄の過程を肌で実感出来る貴重な経験をする事が出来ました。



PM 1:30～PM 3:00 バス内で昼食後、製鉄所（堺地区）に到着しました。

工場の職員の方々から工場の沿革、物流工程、周辺環境、製造上の管理体制等の説明をカタログ・スクリーン映像等を用いて行っていました。

その後、和歌山地区工場から運搬されて来たスラブ材を圧延し、任意の長さに切断加工・検品する過程を見学し

ました。

こちらでも加熱された製鉄材を真近で見ることが出来て製鉄の迫力を感じると共に最後の製品寸法検査は人の手で一つ一つ行われていることを学ぶことが出来ました。

質疑応答では2工場に関する活発なやりとりが行われ、同じ鉄でも電炉と高炉による製造方法の違いやなぜ1地域の工場で製造工程を完結しないか等、実際に製造されている方々からの生の意見を聞けることで鉄鋼関係の知識をより一層深めることが出来ました。

PM 3:30～PM 4:30 日鉄住金建材工場にバスで到着後、工場の職員の方々からガードレール、デッキプレートの製造工程と津波対策製品の説明及び工場内に設置した製品実物を有効活用した地域貢献内容を説明頂きました。

工場職員の方々の誘導に従いガードレールの性能の他、焼付塗装の過程、オートメーション化されたデッキプレートの製造工程を見学しました。

津波対策製品を設置した場合としない場合の冠水時間比較を行う比較模型等、机上の検討だけに留まらない製品開発の姿勢を学ぶことが出来ました。



今回の事業は、見学会日時が決定してから開催まで非常に準備・告知期間が短かったにも関わらず、無事完了することが出来ました。それは、青年メンバー及び樺原支部メンバーの協力もさることながら、「奈良県鉄構建設共同組合 青年部会」様の多大なご助力と快く見学先としてこの企画を受けて頂いた「新日鉄住金(株)」様、他各所で協力頂いた関係者様のおかげです。本当にありがとうございました。

この事業に参加して頂いた皆様の多くが今回の見学で得た知識と経験を基により良い建築物が建設されることを期待致します。

（記・青年委員会 南 喬）



青年委員会

「五感感じる木の事業」を開催しました

8月20日（日）桜井市の木材振興センター「あるぼーる」ならびに桜井市南音羽地内にて「五感で感じる木の事業」が開催されました。



この事業は、感受性の多感な幼少時期に木と直接的に触れ合うことで、木の大切さを少しでも知って、子どもの心に木が身近な存在と感じ続けてもらう。また建築士会のPRを兼ねて、参加者の保護者様に建築士会の活動内容について把握をして頂き、更には保護者様の知人に派生的に周知をして頂く事が目的です。

今回は、桜井木材協同組合青年経営者協議会の森本会長をお招きし、植林されている木を伐採するところを実際に見せて頂き、木の香りや手触り、更に木の倒れる音を感じながら、木の大切さを森本会長からお話を伺うことが出来ました。当日は小学生低学年の子供たちや親御さん20数名の方々、また教員の方で環境学習に興味をお持ちの方もご参加頂きました。



林道から山に入り、険しい道を登り伐採作業を開始、初めてチェーンソーを使用し立ち木の伐採を行いました。

参加者の皆様には非日常的な感覚に包まれて終始歓声が上がっており、木が倒れる瞬間の音や迫力、匂いを感じて

頂き、身近な木がどのように生育し、数十年後に有効的に活用される事を実感して頂くことが出来ました。

奈良県の山は杉と桧が密植されており、年輪幅が狭く密度が高いことから強度が強く、たわみにくいそして、節が少なく年輪幅が均一で美しい真っ直ぐな木目をしていることが特徴です。また身近な公共建築物にも多数使用されています。



その後、木材振興センター「あるぼーる」にて皮むき体験を実施致しました。社寺建築などで使用される檜皮を採ることに挑戦し、非常に難しく苦戦しましたが、良い体験できた、皆様満足しておられました。



午後からは森本会長による座学で、さらに木材についての学びを深めました。地球温暖化などの話題にも触れながら参加者と森への感謝や植物の命を利用し、私たちが生活をしていることを理解していただき、共に楽しい時間を過ごすことができました。

今回の事業は設営までの準備期間が非常に短かったにもかかわらず、多くの青年メンバーのサポートのおかげで、満足していただける内容になったと思います。

今後も様々な活動を通じて建築士会とのつながりを持っていただく機会を増やしていき、建築士会のイベントに興味を持って頂き、建築士を身近に感じていただけることが大切だと考えます。

（記・青年委員会 吉田敦彦）



お知らせ

Information

●ホームページ・ヘッドライン（予定含む）

【郡山支部】工場見学

【高田支部】ボーリング大会

●会長候補者推薦について

一般社団法人奈良県建築士会定款運営規則第7条第2項に定める会長候補者の推薦は、平成29年11月1日(水)から11月30日(木)までに会長候補者推薦書を事務局に提出していただくこととなっておりますのでお知らせいたします。

尚、会長候補者推薦書は、事務局に備え置くほか、本会のホームページに掲載しています。

●平成30年新年大交歓会のご案内

新年大交歓会を開催いたします。是非ご参加ください。

日時：平成30年1月26日(金)

場所：ホテルリガーレ春日野（奈良県奈良市）

※詳細は後日ご案内差し上げます。

●奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会

（更新及び新規登録）

開催日：平成30年1月18日(木)

会 場：奈良県文化会館 小ホール

※詳細、申込については後日ご案内差し上げます。

※会場へはなるべく公共交通機関をご利用ください。

●「既存住宅状況調査技術者講習」のご案内（新規講習）

受講対象：一級、二級、木造建築士

開催日程：平成29年11月21日(火)

時 間：9：30～17：20

定 員：24名

●「監理技術者講習」のご案内

監理技術者は建設業法第26条第2項に定められた資格者で、工事請負金額4,000万円以上（建築一式工事は6,000万円以上）の請負工事への配置と、5年毎に「監理技術者講習」を受講することが法律で義務付けられています。日本建築士会連合会では、国土交通省から同講習の登録講習機関として登録を受け、監理技術者講習を実施します。設計者にとっても建築施工の現状を学べる有意義な講習であり、建築士会CPD認定講習でもあることから、設計業務にのみ従事する方にも学習を目的として受講をおすすめしております。

開催日程：平成29年12月19日(火)

平成30年2月15日(木)

3月27日(火)

時 間：8：50～16：40

定 員：各30名

●訃報

柏原功司氏（天理支部） 10月

ご冥福をお祈りいたします。

新入会員の紹介 『よろしく』

氏 名	支部	勤務先〒	勤 務 先 住 所	勤 務 先
前 川 竜 也	天理	634-0005	奈良県橿原市北八木町1-1-8 橿原中央ビル	(株)都市企画設計コンサルタント

編集後記

今回の後記は今年から情報広報委員に選ばれた私が初めて担当いたします。とりとめもない話ですが、お付き合い下さい。

私は奈良建築士会に入会して3年程度ですが、そもそも建築士会に入会した目的は、大阪の設計事務所から天理の不動産会社に転職して間がなかったときに、大きく2つ。地元不動産の情報が僅少な私にとって設計士と知り合いになることで仕事に繋げられるのではないかと。もう1つは、会社で設計部門を立ち上げましたが専門は意匠でしたので地元の構造設計士や設備設計士と知り合えと思ったからでした。

実際、建築士会に入ってくれしい誤算は、いろいろな業種の方が集まっている会と言うことがわかったことでした。何も設

計事務所に勤めている建築士だけの会でなかったのです。何を今更と先輩方は思われると思いますが、これまで設計事務所に勤めていた私にとっては、会費を払い情報誌を定期的に購読する以上に得られるメリットを想像もしていませんでした。

最近では親睦会で親しくなった大工さんに改修を依頼したり、材木屋さんから材料を購入したり、逆にお客さんを紹介していただいたり、土地や建物の仲介を依頼されたり、確実に仕事に繋がって広がりがでてきています。

度々、会員不足の話題が出ていますが今後も皆様に良い情報をお届けし、増員に繋がるよう努力していきたいと思います。

(記・福田成生)

Calendar

2017年11月

- 12(日) 文化財建造物専門家育成講習会
- 21(火) 既存住宅状況調査技術者講習(新規講習)
- 22(水) 監理技術者講習
- 26(日) 文化財建造物専門家育成講習会

Calendar

2017年12月

- 2(土) 伊東豊雄講演会・薬師寺食堂特別拝観
- 7(木) 二級建築士試験合格発表(予定)
- 8(金) 建築士全国大会(京都)
- 17(日) 文化財建造物専門家育成講習会
- 19(火) 監理技術者講習
- 21(木) 一級・木造建築士試験合格発表(予定)
- 23(土) 天皇誕生日
- 29(金) 事務局休業(～1/3まで)

士 會 奈 良

通巻616号

平成29年11月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 瀧上 徳光

編集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会

印刷所 株式会社 明新社

日本で最も多くの1級建築士を輩出し続けている学校です。

※平成24～28年度(過去5年累計)1級建築士設計製図試験 合格者合計19,562名中、当学院受講生10,636名、全国合格者占有率54.4%。平成28年度1級建築士設計製図試験 全国合格者3,673名中、当学院現役受講生1,957名、全国合格者占有率53.3%。

平成28年 1級建築士 設計製図試験

奈良県
合格者占有率

No.1

奈良県 合格者占有率

60.9%

奈良県合格者23名中、当学院現役受講生14名

平成28年 2級建築士 設計製図試験

奈良県 ストレート合格者占有率

46.7%

奈良県ストレート合格者45名中、当学院現役受講生21名

開講
迫る!!平成29年度
1級・2級建築士
学科対策講座

1/15・18

1月開講日
お申し込みは
お早め!1級・2級 建築士
1級 管工事施工管理技士建築設備士
設備設計・設備設計1級建築士1級・2級 建築施工管理技士
宅地建物取引士1級・2級 土木施工管理技士
インテリアコーディネーター

総合資格学院

学院長 岸 隆司



総合資格

検索

Facebook「総合資格」で検索

スクールサイト

www.shikaku.co.jp

コーポレートサイト

www.sogoshikaku.co.jp

奈良校 TEL.0742-30-1511

奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F

近鉄大和西大寺駅北口から徒歩5分